

アイデンティティ形成を支える日本語学習活動の実際 ーフィリピン中等教育機関向け教材『enTree-Halina! Be a NIHONGOJIN!!-』の学習活動からー

松井孝浩・大船ちさと・和栗夏海・須摩亜由子

〔キーワード〕 アイデンティティ形成、「人間教育」、複数言語環境、教材開発、中等教育

〔要 旨〕

フィリピンでは、中等教育機関において2009年6月から日本語が試験的に導入された。海外の中等教育における日本語教育では、言語能力の向上に加え、人間性の育成を目指した「人間教育」といった側面が期待されることが多く、フィリピン教育省も「第二外国語におけるコミュニケーション能力の向上」、「世界中の様々な就業の場で活躍する力」、「異文化への寛容的な態度の育成」を教育目標に据えている。そこで筆者らが開発を進める教材においても「人間教育」を主要なコンセプトの一つとしている。その中でもアイデンティティ形成を支える学習活動は「人間教育」の実現を支える重要な要素の一つである。本稿ではまず、教材のコンセプトと構成について触れる。次に、複数言語環境におけるアイデンティティ形成に関連する3つの学習活動の詳細を述べる。最後に、日本語教育におけるアイデンティティ形成をめざす学習活動の重要性について論じる。

1. はじめにー「人間教育」としての日本語教育とは何か

子どもたちの成長を支える日本語教育とはどのようなものであるべきだろうか。また、それはどのような学習活動によって実現されうるのだろうか。これが本稿における筆者らの問題意識である。

フィリピンは170あまりの言語が存在する多言語国家であり⁽¹⁾、公用語はフィリピン語と英語である。1974年以降、学校教育ではフィリピン語と英語のバイリンガル教育政策が採られており、文系科目はフィリピン語で、理数系科目は英語で教えられている。子どもたちは、最低フィリピン語と英語の2言語、中には母語、地域の共通語も含め4言語、またはそれ以上の複数言語環境で成長している。このような環境下、外国語科目は1974年のバイリンガル教育政策開始と同時に公式的には学校教育から姿を消していた。しかし2008年12月、フィリピン教育省（以下、比教育省）は、グローバル化の中、英語圏以外でも活躍できる人材の育成を目指し、中等教育機関⁽²⁾において、2009年6月からスペイン語、フランス語、日本語⁽³⁾を選択外国語科目⁽⁴⁾として試験的に導入することを決定した⁽⁵⁾。フィリピンは200万人以上の労働者を海外に送り出しており⁽⁶⁾、そういった労働者からの海外送金額が約230億ドルと世界第四位の額を誇り、GDPの10.3%を占める⁽⁷⁾。送金額とそのGDPに占める割合から、世界一の出稼ぎ国家ともい

われるフィリピンの教育省が掲げた外国語教育の目標は、「第二外国語におけるコミュニケーション能力の向上」のみならず、「世界中の様々な就業の場で活躍する力」、及び「異文化への寛容的な態度の育成」であった。

大船ほか (2011) でも指摘しているとおり、海外の中等教育機関における外国語科目としての日本語教育では、言語能力と同時に人間性の育成を目指した「人間教育」の側面が期待されることが多い。フィリピンでは「世界中の様々な就業の場で活躍する力」、「異文化への寛容的な態度」がそれに当たる。このようなグローバル化した社会を生き抜く「人間教育」の側面を教育目標の一つに据えるのであれば、それに応じた教育実践が行われるべきである。

では、「人間教育」としての日本語教育とはいかなるものであろうか。筆者らはそれを単なる言語訓練に留まらず、子どもたちの成長をまるごと捉えていこうとする日本語教育であると考えている。自分はどのようなことに興味があり、どのようなことに喜び、あるいは悲しみを感じるのか。また、自分の身の回りにはどのような人々がいて、それらの人と自分はどのような関係にあるのか。そして、これらの人たちの間で自分はどのような夢を描き、それに向かって何をしたらよいか。このような子どもひとりひとりの生活に根ざした思いをすくい上げ、未来を切り拓いていく力に変えていく日本語教育こそが「人間教育」としての日本語教育であると筆者らは考える。その中でも子どもたちが自分自身を発見し新たな自己を作り上げていくことを目的とするアイデンティティ形成のための学びは、あらゆる学びの基礎として位置づけることができるだろう。

日本語教育におけるアイデンティティ形成やそれに関連する日本語能力等の問題については、実践の中で児童生徒の「audibility」を守り「行為主体性」を育てることの重要性を論じたもの(斎藤2006)、「日本語能力」自体の概念の問い直しとアイデンティティ形成を論じたもの(細川2010)、「移動する子ども」の日本語には動態性、非均質性、相互作用性が見られると論じたもの(川上編2006)などがある。しかしながら、これらの論考ではその理論的背景やめざすべき方向性などについては論じられているものの、具体的な学習活動については触れられていない。また、経済協力開発機構(OECD)では、人が円満な社会生活を営み、自身の人生を幸福に生きるために備えるべき重要な力として、3つのキー・コンピテンシーを発表している(ライチェン、サルガニク、2006)。キー・コンピテンシーは知識や技能のような可視的な力だけではなく、学習への意欲、関心、態度から行為、行動に至るまでの広く深い部分をも含む能力概念である。この能力概念は多数の国の教育政策にも影響を与えているが、日本語教育に取り入れられた例はほとんど報告されていない⁶⁾。従来の日本語力の向上に加え、「人間教育」の側面を教育目標に取り入れた教材や実践の例は、筆者らが知る限り、中国の大連市で使用されている「人間関係の温暖化」と「多文化共生」を理念に掲げ実践している第二外国語教育用日本語教材『好朋友 - ともだち - 』、オーストラリアの「Intercultural Language Teaching and Learning

(ILTL)の考え方とその実践例（キャッシュョナックほか2008）などに限られている。

筆者らは、「人間教育」についての側面を教育目標の一つに据え、2009年からフィリピンの中等教育機関向け日本語教材『enTree-Halina! Be a NIHONGOJIN!!-』（以下『enTree』）の開発を続けている。大船ほか（2010）では、開発の過程や『enTree』のコンセプト・構成・評価などを含む全体像について概要的に報告し、続いて大船ほか（2011）では、「人間教育」の側面の目標の達成度を測るための多人数クラスでも実践可能な『enTree』の評価ツールについて報告した。本稿では、『enTree』の具体的な学習活動について詳述する。まずはじめに、コンセプトと教材の構成について説明し、次に、『enTree』を構成するUnitの中から複数言語環境におけるアイデンティティ形成に関連する3つの学習活動を取り上げ、その詳細を述べる。最後に、アイデンティティ形成を視野に収めた学習活動の日本語教育における重要性について論じる。

2. 教材のコンセプトと構成

2.1 コンセプト

フィリピンでは、文法積み上げ式の教科書を使った日本語の授業が行われることが一般的であるが、比教育省が掲げた外国語教育の目標は、「第二外国語におけるコミュニケーション能力の向上」のみならず、「世界中の様々な就業の場で活躍する力」、及び「異文化への寛容的な態度の育成」であった。日本語教育という科目を通して、グローバル化が進んだ社会の中で生き抜く力を身につけることが期待されており、これまで一般的に行われてきた日本語教育以外の方法を模索する必要があった。

教材のコンセプトを考えるにあたり、まず、2009年6月から、すでに日本語の学習を開始した高校生と日本語の授業を担当していたフィリピン人高校教師、および日本人日本語教師^⑨に対してニーズ調査を行うと同時に、世界中等教育の状況の調査を開始した。その結果、各国の教育理念や目標の共通点として、フィリピンと同様に、グローバル化した社会を生き抜く力を身に付けることが期待されているものの、日本語教育の教材として具現化されたものは数少ないことが分かった。

また、成長段階にあるフィリピンの高校生がこれから生きていくために必要となる力を描き出すことにも取り組んだ。教材制作チームでフィリピンの高校生が直面する社会問題について話し合った結果、フィリピン人執筆委員から、フィリピンには貧困の問題があり、経済的格差の大きい社会であること、そのこととも関連し、海外就職を目指す人が増えていること、その結果、フィリピン以外の国への興味が高まり、自国フィリピンに関する知識や興味が不足していることが指摘された。また、一般的に「crab mentality」と呼ばれる足を引っ張り合う性格がフィリピン人にはあり、個々の個性や突出した能力を認め、育てていく態度があまりないとい

った指摘もあった。そこから、フィリピン人としての誇りを持ち、個々の個性、つまりアイデンティティを尊重していく態度の育成が大切だという考えに至った。また、自律的に学習する観念に乏しく、貧困や足を引っ張り合う性格も相まり、夢を諦めてしまう若者が多いことを憂う意見も出された。

そこで、高校生たちが自分たちを取り巻く社会問題を克服する力や比教育省が掲げる世界中の様々な就業の場で活躍するための力を含むグローバル化が進んだ社会の中で生き抜く力を身につけることを目指し、教材のコンセプトを、日本だけではなくフィリピンを含む世界の人や文化に対して、そして自分自身に対して興味関心を抱き、目標を発見し、自ら学びながら、自己実現していくための力を育成することと定めた (図1)。

図1 教材のコンセプト



成長と共に変化する自分なりの目標 (MISSION) を見つけ、自己実現していくためには、常に自分自身について振り返ることが重要である。『enTree』のコンセプトには、クラスメートを含む身近な人や、日本・フィリピンを含む世界の人々や文化・社会に興味・関心を向け、さらに自分とはいったいどのような人間であるのかという自分自身に対して関心を向けることで、自己認識を豊かなものにし、自ら学び、成長し、そして自己実現する力をつけてほしいという願いが込められている。これが『enTree』で実践しようとしている「人間教育」としての日本語教育であり、高校生のアイデンティティ形成を支える教育である。

2.2 教材の構成と内容

『enTree』は、a) レッスンプラン／教師用参考資料、b) ワークシート、c) 素材集 (写真パネル、フラッシュカード、レアリア等)、d) 評価キット (自己評価シート、ループリック等) で構成されているリソース型教材である。2年間の日本語学習に対応した教材で、1年目に使用する『enTree 1』は全16ユニット、2年目に使用する『enTree 2』は全14ユニットの計30ユニット構成である。シラバスはトピックシラバスを採用している (各ユニットのタイトルは表1を参照)。

表1 『enTree』のユニットタイトル

enTree 1	enTree 2
1 Halina! Be a Nihongojin (フィリピン語: おいでよ! 日本語人になろうよ!)	17 Nihongojin ka na rin ba? ★ (フィリピン語: もう日本語人になった?)
2 Nihongo Writing Systems	18 Journey to Self-discovery ★
3 Getting to Know Each Other	〈Daily Life〉
4 Greetings	19 Hello! Watch Your Manners
5 Introducing Family	20 Favorite Television Show
6 Celebrating Birthday	21 Shop Green & Go
7 Thankfulness/Forgiveness	〈Innovating Traditions〉
8 Convey, Connect, Communicate	22 Traditional Fashionista
9 Favorite Things	23 Shall We Dance?
10 Daily Meals	24 One Day, Isang Araw
11 School	〈The World We Live In〉
12 Favorite Subject	25 Food Trip
13 Daily Schedule	26 Annual Events
14 Enjoying Free Time	27 Making My Town a Better Place
15 House	28 Travel
16 Loving Music	29 Ambition in Life ★
	30 Nihongojin na rin ako ★ (フィリピン語: 私も、もう日本語人!)

★〈One's Mission〉(必修ユニット)

『enTree 1』は、学習者が自分自身や家族、クラスメートについて知ることを通して自分と他者の関わりについて考えていく内容となっている。『enTree 2』は、「One's Mission」「Daily Life」「Innovating Traditions」「The World We Live In」の4つのカテゴリに分かれており、日常生活から、自分たちが住んでいる町やフィリピンのこと、自分たちの住む世界と自分たちの関わり、そして自分の将来を考える内容へとトピックが広がっている。

各ユニットで定められた目標は、目標達成に必要な言語の難易度によって、日本語で達成するものと、フィリピン語もしくは英語で達成するものに分けられている。例えば、インタビューは日本語で行い、その結果の考察はフィリピン語または英語で行う等である。また地域ごとの学習者の言語状況により、この3言語以外の言語を使用することもできる。

2.3 評価の方法

授業を通して何を考え、何に気づいたかを記録するためのツールとして、「J-Tree」(参考資料1)を開発した。この「葉」の部分に、毎回、授業の最後に授業をふり返り、自分自身が学んだことや気づいたこと、発見したことを英語やフィリピン語などで記入する。また、古雑誌を用いて作成する「enTree book」というポートフォリオも評価対象となる。「enTree book」

にはワークシート、テスト用紙、クイズや宿題など、日本語学習で利用したものを全て貼りつけ、目次も学習者自身が作成する。なお、評価の観点や方法などは、大船ほか (2011: 135-150) で詳述されている。

3. アイデンティティ形成を支える学習活動

本章では『enTree』の中から特にアイデンティティ形成に注目した3つの学習活動を取り上げ、それらの目的から活動の実際までを詳述する。

3.1 学習活動①：生徒ひとりひとりの言語的背景への気づきを促す学習活動

『enTree 1』最初のユニットである「Unit 1 Halina! Be a Nihongojin」は、4つのセッションからなる。まず Session 1では、自らの言語的背景について振り返る学習活動を行う。次に Session 2ではフィリピンと日本の地理的特徴についての共通点や相違点について考えることを行ってから、簡単な自己紹介の表現を学習する。Session 3では、生徒の身の回りにある日本の製品などを見つけていくことや日本にあるフィリピンの製品について知ることを通して両国が密接な関係にあることに気づく。Session 4では「enTree book」と「J-Tree」についての評価の方法を生徒とともに確認する。以上、Unit 1は自らの言語的背景を振り返る、フィリピンと日本についての関係を学ぶ、評価の方法について知るということを通して、これから進めていく日本語学習の準備を行うことを目的としている。本節では、特に Session 1の自らの言語的背景を振り返る活動を取り上げてアイデンティティ形成との関係を論じる。

日本語学習初日である Session 1で取り組む学習活動は「Language Biography」の作成である。「Language Biography」とは、自分は生活のどのような場面でどんな言語を使っているのかについてをまとめた表である (参考資料2)⁽¹⁰⁾。生徒たちは新たな言語である日本語を学ぶ前にまずこの表を作ることで、自分の言語的背景について振り返る。

実際の学習活動ではまず、フィリピンには170あまりの言語が存在することを生徒とともに確認する。そして、どんな言語が理解できるかを尋ねたあと、「Language Biography」のワークシートを配布する。このシートの上欄には「Languages I can use and / or understand」という欄 (横軸) があり、ここに自分が使っている、あるいは理解できる言語名を書き入れる。左上には「I use the language」という欄があり、その下に家族や親戚と話す、隣近所や地域のコミュニティで使うなどの生活におけるさまざまな場面についての記述がある。さらに、この欄の下には空欄があり任意の場面を書き入れることができるようになっている (縦軸)。生徒はこの表にチェックを入れ自分が知っている、理解できる言語は誰とどのような場面で使うのかについての振り返りを行う。

次に表の右側の欄の上下には「In the future, I'd like to be able to: / in Nihongo」という書き込みがあり、この上下の文言の間に日本語でできるようになりたいと思うことを学習目標として

自分が最も書きやすい言語で書く。そして、その下には「You can add to the contents of this list anytime you like. So please note down the dates you add the contents. (書き加えたい内容があればいつでも書き入れましょう。書き加えた日付も入れてくださいね)」という説明がある。これは日本語を学習している間いつでも、この欄の目標を書き換えたり、新たに加えたい目標を書き込んだりすることを促すためである。ここまでの活動が終了したら、数名の生徒が自分の「Language Biography」や日本語でできるようになりたいことなどを発表する。最後に、教師はひとりひとりの言語的背景や日本語でできるようになりたいことは異なるが、これからいっしょに日本語を勉強していこうという説明を行い、生徒の学習意欲を喚起する。

では、ここで一人の生徒の「Language Biography」を紹介しよう。セブ市に住むロメオ君(仮名)は、父親はレイテ出身、母親はセブ出身であり、それぞれの母語はワライ語とビサヤ語である。ロメオ君は家庭や地域では主にビサヤ語を使うが、父と話すときにはワライ語を使うときもある。加えて父の実家に遊びに行ったときには流暢ではないものの基礎的なワライ語を使う。学校では国語の時間にフィリピン語を使い、英語、数学、物理の授業では英語を使う。また、テレビはドラマなどを中心にフィリピン語とビサヤ語の両方で視聴する。さらに、日本の漫画を読むときには基本的に英語に翻訳されたものを読むが、ひらがなやカタカナ、漢字を目にする機会もあるし、時間があるときには日本語のアニメのテーマソングを聴く。したがって、ロメオ君の言語生活はビサヤ語、フィリピン語、ワライ語、英語、日本語という5つの言語に彩られている。そして、彼は自分の「Language Biography」に「日本の漫画を日本語で読めるようになりたい」と書いた。

このような複数言語環境で生活する生徒が「Language Biography」を作成することには、自分の言語的背景を豊かなものとして捉え直していこうという目的がある。それは例えばロメオ君にとってのワライ語のように流暢ではない言語について恥ずかしいという思いを抱く生徒も多く、それゆえ自分自身の言語についてのアイデンティティに否定的な感情を抱く生徒がフィリピンでは少なくないからである。だからこそ、たとえ不完全でも複数の言語を使えるということは、自分を表現する手段をそれだけ多く持っているということであり、すばらしいことなのだということに気づいてほしいという教材制作者の思いがこの学習活動には込められている。それゆえワークシートにも「Wow! I can use several languages depending on varying situations! (すごい! わたし/ぼくって、場面によってこんなにいろいろな言葉を使えているんだ!)」という書き込みが右上にあり、教師は生徒が自分の言語的背景を肯定的に捉えられるように働きかけるのである。この学習活動は「苦手な言語を持つ自分」についての認識を「豊かな言語的背景を持つ自分」と再解釈し言語的背景についての肯定的なアイデンティティ形成を支えるものであると言える。

3.2 学習活動②：自分の名前の由来を知る学習活動

「Unit 3 Getting to Know Each Other」は、4つのセッションからなる。まず、Session 1では、世界の言語の挨拶の非言語的な要素に注目し、お辞儀をしながらの日本での初対面での挨拶を学習し、その後、名前の由来についての問いかけが行われる。Session 2では、日本人とフィリピン人の名前について考え、名前に込められた思い、名前の大切さに気づく。Session 3では、自分のニックネームのカタカナでの書き方を学び、他者紹介ができるようになる。Session 4では、好きな言葉を日本語で質問する活動から、「へー、そうなんだ」「同じ」など、共感などの自分の気持ちを表す表現を学び、これらの活動を通し、人と知り合い、関係性を築いていくことを考える。本節では、Session 1とSession 2の名前について考える活動を取り上げてアイデンティティ形成との関係を述べる。

Session 1では初対面の挨拶として、自己紹介の表現を日本語で学んだ後、その際必ず交換する情報である名前に注目し、「自分の名前の由来を知っているか?」という問いかけから始め、すでに知っている生徒については自分の名前の由来を発表させる。次にサンプルとしてある名前の由来を紹介し、その日の宿題として両親や親類に自分の名前の由来を尋ねてくるように指示する。そして、翌日のSession 2では数人が宿題を発表し、クラスメートや先生から「そんな思いが込められているんだね」「イメージにあっているね」などのコメントをもらう。このような学習活動から生徒は、自分の名前にはたくさんの思いが込められており、家族などの身のまわりの人からの思いを受けて育ってきた自分という存在を感じることができる。これに加えて自分の名前についての第三者からのコメントを受け取ることにより、他者から見える自分を知る一つのきっかけを得ることもできる。

この後、生徒は日本人の名前の由来やフィリピンで多い名前などについて学び、活動の最後にももしも自分の名前をフィリピンの言葉で自由に付けられるとしたら、どんな名前を付けたいかを考える学習活動を行う。フィリピン人の名前にはスペインやアメリカなどの国で多く見られる名前や宗教上の慣習から聖人の名前をルーツとしたものが多い。そこで、フィリピンの言葉で名付けのアクティビティをすることにより、フィリピンの言葉が語源である名前を知ると同時に、自分らしさをフィリピンの言葉で表現してほしいという教材制作者の思いが込められている。生徒たちは、自分の性格、好み、理想の姿などを考え、フィリピン語を使って好きな名前を付ける。例えば、マーク君（仮名）は、背が高いという自分の特徴と、しなやかでありたいという願いから「kawayan（竹）」という名前を選んだ。このように、自分を表すもの一つである名前を自分で付けるという学習活動は、自分自身の性格や特徴、こうありたいという姿を考え、表現する機会になる。

このように、Unit 3では自分の名前の由来を改めて確認することを通して、自分の名前に込められた意味や自分を大切に思ってくれている人の存在に気づき、かけがえのない自分という

存在を再認識することができる。更に、フィリピンの言葉で名前をつけることは、自分の国の言葉や自分らしさ、あるいは他者に自分をどのように見てもらいたいかについて深く考える機会を提供する。これらは、「私は何者であるか」を考えるきっかけを作るものであり、自己イメージについてのアイデンティティ形成を支えていると言える。

3.3 学習活動③：自分自身について振り返り、自己認識を深めるための学習活動

『enTree 2』の「Unit 18 Journey to Self-discovery」は、5つのセッションからなる。Session 1からSession 3では、自分の長所や好きなことについて再認識し、これまでの自身の人生の歩み（出来事）について振り返ることを通して、現在の自分自身についての認識を深めることを目的とした活動を行う。そして、Session 4とSession 5では、自分のMissionとして関心のある将来の職業を見つけ、その職業に就くためのアクションプランを作成する。中でも、本節では、Session 1からSession 3までの現時点での自分自身について振り返るための学習活動を紹介する。

まず、Session 1では、自分の長所や好きなことを再認識させるため、「My Good Points」（参考資料3）シートを作成する。このワークシートは、「Picture/drawing」（現在の自分）、「Nickname」（カタカナで記入）、「Personality」（肯定的な性格について理由と共に記入）、「SUGOI! at school」（学校での行動や活動における肯定的な面について記入）、「SUGOI! at home and neighborhood」（家庭や地域社会の中での行動や活動における肯定的な面について記入）、「SUKI」（趣味など好きなことについて記入）という記述欄が設けられている。

実際の学習活動はまず、自分なりのMissionを見つけるために、自分自身について知ることの大切さを意識することから始まる。そして、同年代の高校生が英語と日本語を使って書いた「My Good Points」シートを例として見る。日本語は、「SUKI」の欄が「ほんを よむのが すき」といった既習の表現で書かれていることに加え、「Personality」に「やさしい」「まじめ」という未習の語彙が含まれている。シートに書かれている全体の内容を確認した後、性格を表す日本語として「あかるい」「おもしろい」「フレンドリー」などを導入し、練習する。次に教師は生徒をグループに分け、「My Good Points」シートを配付し、生徒は「Nickname」をカタカナで記入する。その後、生徒は、自分の「My Good Points」シートの「Personality」と「SUGOI! at school」をグループメンバーに書いてもらう。この時、教師は生徒に性格や教科名など日本語で記述できることは日本語で書くよう指示する。その後、クラス全体で、この活動を通して新たに発見した自分の一面についてディスカッションする。最後に宿題として、「My Good Points」シートを家族などに手伝ってもらいながら完成させるよう伝える。

ここで、生徒の「My Good Points」シートの一部を紹介する。マリアさん（仮名）のシートには、クラスメートからの記述として、「Personality」の欄には「Furendori： She can easily get

along with other people (フレンドリー：：すぐに人と仲良くなれる)」「Yasashii： She can help someone and give her opinion about it (やさしい：手助けやアドバイスができる)」、「SUGOI! at school」の欄には「She is very hard working and helps other people whenever she is asked about certain lesson/assignment (いつもがんばっていて、授業や宿題について聞かれたらいつでも助けてあげる)」「She is good in making projects and outputs like the entree book & J-tree (enTree Book や J-Tree のような作品やプロジェクトを作るのが上手)」といった内容が書かれている。また、「SUGOI! at home and neighborhood」の欄には、母親からの記述として、「She always helps in doing household chores. She is diligent and industrious (いつも家事を手伝ってくれる。とても勤勉。)」と書き込まれていた。

続いて、Session 2 と Session 3 では、これまでの自分の人生の歩み (出来事) をふり返ることで、現在の自分自身についての認識を深めるために「My Life Map (until NOW)」(参考資料 4) の作成を行う。このシートには、兄弟の誕生、小学校入学・卒業、高校入学といった出来事に加え、うれしかったこと、ショックだったことなど印象に残っている出来事を中心に英語、フィリピン語、日本語を使って時系列で記入する。生徒同士のペアワークの前に教師が自分の人生の出来事について紹介し、これまで学習した日本語の復習を行うと同時に口頭でクラスメートに書いた内容を共有するときの新たな表現として、「うまれました」「にゅうがくしました」「そつぎょうしました」を導入し、練習する。その後、生徒はペアになり、自分の記入済みのシートを英語、フィリピン語、日本語を使って紹介し合う。この時、聞いている生徒は、「へー、そうなんだ」「同じ!」「すごい!」といった既習の日本語を使って共感を表す。最後に、クラス全体で、人生の中で一番印象に残っている出来事や幼少時の夢などを発表し合い、人は人生において異なる経験を積み重ねて個性豊かな個となり、また、現時点での自分自身は過去の出来事と切り離せないということを意識させる。

ここで生徒の一人、テスさん (仮名) の「My Life Map (until NOW)」シートの一部を紹介する。まずはじめに、「2さいのとき いもうとが うまれました。」「5さいのとき いもうとが うまれました。うれしい!」と兄弟の誕生について書かれている。次に、「6さいのとき A shougakkou に nyuugakushita」「10さいのとき I am chosen to socialize with Koreans (韓国人と交流する機会を得た)」と書かれており、2つの出来事の間には「ドキドキする」というその時の気持ちが書かれている。続いて、「I got 3rd place in badminton for girls. (女子バドミントン大会で3位になった)」「11さいのとき A しょうがっこうを そつぎょうした and I take the entrance test in B Science High School and passed. (原文ママ：B サイエンス高校の入学試験を受け、合格した)」という出来事が記述されており、2つの出来事の間には「やった!」という気持ちが添えられている。次に、「My crush went to California. (好きな人がカリフォルニアに引っ越した) ざんねん! :⁽¹¹⁾」と続き、「12さいのとき B science こうこうに にゅうがくし

た]「My classmates forced me to join Mr. and Ms. UN and luckily I was one of the top ten. (ミス&ミスター UN⁽¹²⁾にクラス代表として出場させられたけど、幸運にもトップ10に入った)すごい!」[13さいのとき I was one of the Nihongo students. (日本語クラスの一員となった)]と高校生活について書かれている。現在の自分について記述する欄には、「15さいのとき I am studying in B Science High School. I am now 4 th year! (Bサイエンス高校で勉強している。今4年生!) うれしい」と書かれている。

以上、「My Good Points」では、クラスメートや家族といった他者から自分自身に対する肯定的なイメージを書いてもらうことを通して、他者が思い描く自己イメージを知り、自分自身の長所を再発見することができると同時に、自分に対して自信を持つことができる。次の「My Life Map (until NOW)」シートの作成では、過去の様々な出来事の延長線上に現在の自分がいることを視覚的に再認識することで、現時点での自分自身についての認識を深めることができる。これらの活動も Unit 3 と同様に自己に対する肯定的なアイデンティティの形成を支える学習活動であるが、Unit 18 では、性格や良いところ、過去の経験についてのやりとりなどを通して自分についての認識をさらに深めていくことができる。そしてその過程でこれまで習った日本語を使うことができ、加えて新たな日本語にも出会うことができる。したがって、学習を始めて間もない Unit 3 ではできなかった日本語を含む複数の言語での自己表現がここでは可能になっている。

4. 複数言語環境におけるアイデンティティ形成と日本語教育

ここまで、複数言語環境におけるアイデンティティ形成を支える3つの学習活動の詳細について触れた。続いて本章では『enTree』における新たな試みを通してアイデンティティ形成を視野に収めた学習活動の日本語教育における重要性について論じる。

まず、『enTree』における新たな試みとして第一に挙げられるのは、教材のコンセプトを「Discover and fulfill one's MISSION」とし、ことばの学びと同時に、「人間教育」をめざすべき方向性として掲げ、アイデンティティ形成を視野に収めた学習活動を設計した点である。次に挙げられる新たな試みは、直接的には日本語そのものとは関連しない認知的な学習目標を設定した点である。先述の通り、3つの学習活動の目標の中で日本語使用を積極的に求められるのは学習活動③のみである。学習活動①と②については、それを含む Unit 全体を見渡せば日本語そのものを扱う活動はあるものの、これらの活動自体では日本語の使用が必ずしも求められるわけではない。学習活動の目標をアイデンティティ形成とことばの学びに対する姿勢などの認知的なものに定め、これを今後の日本語そのものを含む学習全体を支える基礎にするという方法は、この教材における新たな試みである。つまり、学習活動③における日本語そのものについての学びは、学習活動①、②が提供する認知的な学び（自己の言語的背景や自分自身に

対する肯定的感情、日本語を含むさまざまな言語への関心)の上に成立するものだと言える。従来の学習活動ではどのような文法項目を扱うか、いかに多くの日本語使用の機会を設けるかという点のみが注目されがちである。しかし、アイデンティティ形成を教育目標の一つとして掲げた場合、学習活動①、②がめざす認知的な学びが不可欠であり、このような学習活動で使用される言語は日本語のみに限定される必要はない。そして、これらの学びは「人間教育」としての日本語教育がめざすべき学びの重要な要素である。

もちろん『enTree』では日本語の学びがおろそかにされているわけではない。それだけではなく、日本語の学びについても新たな試みが埋め込まれている。既に紹介した通り、学習活動③は、日本語で伝えることができない内容については日本語以外の言語で表現することができるように設計されている。それは、伝えたいこと全てを日本語で表現するよりも、表現手段をより多く持ち、そのことに自信を持っていくことのほうが複数言語環境においては大切なことであるからである。重要なのは意味のやり取りをすること、コミュニケーションすることである。従って、日本語で言えることの少なさがコミュニケーションの内容と量に影響することがないように配慮されなければならない。「My Good Points」シートや「My Life Map (until NOW)」(参考資料3・4)はこのような配慮のもとに制作された。これにより、生徒たちは自分が表現できる日本語のバリエーションに制限されることなく、伝えたい内容を複数の言語を組み合わせることで自由に表現することができる。

5. おわりに

本稿では複数言語環境で成長する子どもたちへの日本語教育がめざすものを「人間教育」としての日本語教育であるとし、その中でもアイデンティティ形成を支える学習活動はその基礎に据えられるべきものであると述べた。次に、2009年から開発が続くフィリピン中等教育機関向け日本語教材『enTree-Halina! Be a NIHONGOJIN!!-』のコンセプトと学習活動の詳細を明らかにした。最後に、アイデンティティ形成を教育目標として掲げた場合、学ぶべきことは日本語そのもの以外にもあり、それは「人間教育」としての日本語教育がめざすべき学びの主要な部分を構成することを論じた。このようにアイデンティティ形成という抽象的な目標を具体的な学習活動に落とし込み、そこで学ばれる日本語とアイデンティティ形成との関係について論じ、更なる議論の土台を提供することができたという点については一定の成果を残すことができたのではないかと思う。

しかしながら、全ての日本語教育実施校でこの試みが成功を収めているわけではない。例えば、なぜその学習活動をするのか、なぜその学習活動が重要なのか、その他の活動とその活動がどのように結びついているのかという点を担当教師が理解していないと、学習活動①では自分が普段使っている言語を書き出しただけで終わってしまう。実際にこのような事例も報告さ

れている。よって、本稿で述べてきたアイデンティティ形成を実現していくためには、実践者である教師が「豊かな言語的背景を持つ自分」に気づくという目的を理解したうえで、それに沿った働きかけを行うことが不可欠である。今後は、よりよい気づきを生徒から引き出していくためにはどのような働きかけを行っていったらよいのかについての更なる検討が必要だろう。

なお今回取りあげた生徒のデータは筆者らが巡回指導で訪れた学校でサンプル的に採取されたものである。今後はできる限り多くの学校での教師の働きかけの様子や生徒の制作物、あるいはふり返りの記録等の検証を行っていきたい。そこで教師は学習活動をどのように展開しているのか。また生徒たちはどのように学習活動に参加しているのだろうか。このような具体的なデータを検証することを通して、筆者らが設定した学習の目的が達成されているのかを検討し、その成果を教材や教師研修プログラムの改善に活かしていきたい。

〔付記〕 本稿はリテラシー国際研究集会「〈移動するこどもたち〉のことばとアイデンティティ」におけるポスター発表を論文化したものである。

〔注〕

^① 出典 “Ethnologue Languages of the World”

<http://www.ethnologue.com/show_country.asp?name=PH> 2012年9月27日閲覧

^② フィリピンの学制は6-4-4制で、初等教育6年、中等教育4年、高等教育4年である。

^③ 2010年からドイツ語、2011年から中国語も新たに加わっている。

^④ 2010年6月からは、「Career Pathways in Technology and Livelihood Education」という科目中の選択群の一つとして位置づけられている。

^⑤ 導入の経緯及びヨーロッパ3言語の導入・支援策については大船ほか（2012）に詳述した。

^⑥ フィリピン国家統計局（National Statistics Office）<<http://www.census.gov.ph/content/total-number-of-foreign-born-estimated-22-million-results-2011-survey-overseas-filipinos>>2012年12月16日閲覧。

^⑦ 世界銀行「Annual Remittance Data」より。なお、2012年前期の送金額は約240億で、世界第三位に浮上している。<<http://econ.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/EXTDEC/EXTDECPROSPECTS/0,,contentMDK:22759429~pagePK:64165401~piPK:64165026~theSitePK:476883,00.html#Remittances>>2012年12月16日閲覧。

^⑧ 『好朋友-ともだち-』はキー・コンピテンシーの概念を参照している（加納ほか2009）。また、『国際文化フォーラム通信』81号では「キー・コンピテンシーと各国の初等中等教育の日本語教育における教育目標」の試案を紹介している（国際文化フォーラム2009：9-10）。

^⑨ 2008年度から2010年度まで、21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme）の下、日本人若手日本語教師が派遣され、フィリピンの中高等教育支援にあたった。

^⑩ 作成にあたってはヨーロッパ言語ポートフォリオ（European Language Portfolio: ELP）の「Language Passport」、「Language Biography」、「Dossier」、ジュニア版「My Language Portfolio」を参考とした。

^⑪ 「:」は、悲しみや困惑の気持ちを表現する際に使われる顔文字。

^⑫ 「United Nation's Day」という世界の言語や文化に触れるイベントの略。

〔参考文献〕

- 大船ちさと、藤長かおる、和栗夏海、Florinda A. A. Palma Gil、Junilo S. Espiritu、Bernadette S. Hieida、Alice Mary L. Itchon、Francesca M. Ventura (2010) 「フィリピンの高校生のためのリソース型教材の開発」 『2010世界日本語教育大会論文集 予稿集』、523
- 大船ちさと、和栗夏海、フロリンダ アンパロ A パルマヒル、フランチェスカ M ヴェントゥーラ (2011) 「評価で学習者の自律性は育めるか—フィリピンの高校生向け日本語リソース型教材『enTree』の挑戦」 『国際交流基金日本語教育紀要』第7号、135—150
- 大船ちさと、和栗夏海、松井孝浩、須摩亜由子、フロリンダ アンパロ A パルマヒル (2012) 「『プログラムの継続性』と『学習の継続』を目指した日本語教育導入の試み—フィリピンの中高等教育における実践から」 『国際交流基金日本語教育紀要』第8号、151—168
- 加納陸人、中新井綾子、藤光由子、大船ちさと (2009) 「人間関係と多文化共生を重視した教材開発—大連市中学第二外国語教育用教材『好朋友—ともだち—』の試み—」 『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、273—274
- 川上郁雄 (2006) 「『移動する子どもたち』から見た日本語の力とは何か」 『早稲田日本語教育学』9、129—135
- キャシージョナック、根岸ウッド日実子、松本剛次 (2008) 「オーストラリアの初中等教育における外国語教育の現在と国際交流基金シドニー日本文化センターの日本語教育支援—Intercultural Language Teaching and Learning の考え方を中心に」 『国際交流基金日本語教育紀要』第4号、115—130
- 齋藤恵 (2006) 「JSL 児童生徒の成長における「audibility」と「行為主体性」の意味—子供の成長を支援する言語教育のために」 『リテラシー2、ことば・文化・社会の日本語教育へ』113—127、くろしお出版
- ドミニク S ライチェン、ローラ H サルガニク編著、立田慶裕監訳 (2006) 『キー・コンピテンシー 国際標準の学力を目指して』、明石書店
- 細川英雄 (2010) 「日本語教育は日本語能力を育成するためにあるのか—能力育成から人材育成へ・言語教育とアイデンティティを考える立場から」 『早稲田日本語教育学』第9号、21—25

〔資料〕

- (財)国際文化フォーラム (2009) 『国際文化フォーラム通信』81号
<http://www.tjf.or.jp/newsletter/pdf_jp/F81.pdf> 2012年9月27日閲覧
- 大連教育学院編 (2007—2009) 『好朋友—ともだち— (試行版)』1—5、北京：外語教学与研究出版社

参考資料 1 : J-Tree 抜粋

My progress in learning **Nihongo & Japanese culture!**

Name: _____

Grow your J-Tree bigger and richer!

Write down what you have learnt, what you have realized, and what you have discovered through Nihongo & Japanese culture class! You can draw additional leaves if you like. Of course, you can also attach extra sheets of paper if your tree has grown too big!

Tick the boxes if you can do the following tasks in **Nihongo!** Do your best to get to the top. As you climb up higher and higher, you will see a new world bloom forth before your very eyes! Add words like "fluently", "with confidence" or "slowly" and the dates you wrote these words on the spaces provided, to describe your progress (Ex. fluently [6/17/10]). Let's keep learning!

Write the names of languages you know on the water droplets. Linguistic knowledge is like precious water that helps your J-Tree to grow!

Unit : ____ Session : ____ Date : ____

Others:

- I can sing (a) Japanese song(s)
- I can invite my friends to my home
- I can cheer my friends and reply if someone cheers me up
- I can say what I usually do in my pastime
- I can say my impressions about a particular subject
- I can say my favourite subject
- I can introduce my school
- I can exchange some info about my daily schedule with my friends
- I can say greetings before and after meals
- I can ask and talk about one's daily meals with my friends
- I can say what I like and ask what someone likes
- I can express my feelings of surprise, shock or nervousness
- I can express my apologies and gratitude
- I can say how old I am or how old someone is
- I can say my birthday and I can ask and say someone else's birthday
- I can introduce my family
- I can ask friends how they feel when they look sick or sad
- I can understand teacher's instructions like please listen in Nihongo
- I can greet when I've met someone
- I can react in Nihongo when someone says something
- I can do self-introduction by saying my nickname and my favourite word
- I can say my name and nationality

I can read Hiragana

I can write some words in Hiragana

The words I can write are

I can write my nickname in Katakana

For every quarter, after the exam, reflect on what you can and cannot do at this stage. Then, think about and write your learning plan to further improve the things that you can already do and how to overcome the things that you still cannot do. Let's do our best together!

What I can and I cannot do now:

What I can and I cannot do now:

What I can and I cannot do now:

Learning Plan for Next Quarter:

参考資料 2 : Language Biography

★ My Language Biography ★

Name: _____

EXERCISE 1

Wow! I can use several languages depending on varying situations!

Languages I can use and/or understand				
I use the language (tick all that apply)				
with my family, with my relatives				
in my community, with neighborhood				
with my friends during break time				
with my friends during a class				
with my teachers at school				
with people from other regions in Philippines				
with people from other countries				
when I read newspapers, magazines, comics and books				
when I watch movies or TV, listen to music or the radio				
when I write e-mails, letters, reports or compositions				
when I surf the Internet, use SNS like facebook or chat online				
Others (please list)				

In the future, I'd like to be able to:

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

in Nihongo!

You can add to the contents of this list anytime you like. So please note down the dates you add the contents.

©The Japan Foundation, Manila

参考資料3 : My Good Points (学習活動で作成例として読み合わせをするためのものであり、本文中に引用した学習者のものとは異なる)

entry 2
Unit 18 Good Points; session 1
(For Students)


My Good Points

Personality

She is cute, sweet and caring. Her やさし comes from the heart. She's smart, まじめ and dedicated to her work. She's also approachable and a good listener. Awesome and やさし, but knows when and how to say no. Very ladylike and doesn't talk without sense. Somehow comes out shy, but she isn't afraid to show her real self.

SUGOI! at school
(Art, music, sports, study, etc)

She woke up early and she doesn't have any absence and tardiness for the past 5 years. Studies really well, recites and is always dedicated to her work. She plays sports like volleyball, badminton and chess well. She's also good at tending injured friends.
(Chesca)



SUGOI! at home and neighborhood
(Take care of my brother, volunteer at church, etc)

She always showed what she did during the day. She keeps her promise. She never forgets to greet our neighborhood.
(mother)

I do house chores.
I bath our dog carefully.
(me)

アカ ロレンソ

SUKI (Hobby, favorite subjects, etc.)

わにしいは...

ほんをよむの かずき
ピアノをひくの かずき
おんかくをきくの かずき
ゲームをするの かずき
One of rock のバンド かとよもずき

たごやきかずき

参考資料4: My Life Map (until NOW) (学習活動で作成例として読み合わせをするためのものであり、本文中に引用した学習者のものとは異なる)

